

**DoJa-5.0API**  
**iα ppli Development Kit**  
**リリースノート**

**3.00 版**

平成 19 年 3 月 9 日  
株式会社 N T T ドコモ

## 改版履歴

| 版数   | 項目       | 種別 | 内容   |                                                                       |
|------|----------|----|------|-----------------------------------------------------------------------|
| 1.00 | -        | 新規 | -    | 2006年6月 FOMA 903i向け 制定<br><iappli Development Kit for DoJa-5.0(FOMA)> |
| 1.01 | -        | 変更 | 改版内容 | FeliCaの仕様変更に伴う修正<br>JBlend部分の差し替えに伴う修正                                |
|      |          |    | 改版理由 | 仕様変更・不具合対応                                                            |
| 1.02 | -        | 変更 | 改版内容 | 903i向けサウンドライブラリ対応<br>FeliCaの仕様変更に伴う機能拡張<br>JBlend部分の差し替えに伴う修正         |
|      |          |    | 改版理由 | 機能追加・不具合対応                                                            |
| 1.03 | -        | 変更 | 改版内容 | JBlend部分の差し替えに伴う修正                                                    |
|      |          |    | 改版理由 | 不具合対応                                                                 |
|      | 15<br>16 | 追加 | 改版内容 | JBlend機能制限によるエミュレータ制限事項の追加                                            |
|      |          |    | 改版理由 | JBlend制限事項追加                                                          |
| 1.04 | -        | 変更 | 改版内容 | JBlend部分／903i向けサウンドライブラリの差し替えに伴う修正                                    |
|      |          |    | 改版理由 | 不具合対応                                                                 |
| 2.00 | -        | 追加 | -    | 2006年12月 FOMA 903iTV向け 制定                                             |
| 3.00 | -        | -  | -    | 2007年 3月 FOMA 904i向け 制定                                               |

# 1. はじめに

本書では、「iα ppli Development Kit for DoJa-5.0(FOMA)」の概要と制限事項について説明します。

## 1.1 機能概要

「iα ppli Development Kit for DoJa-5.0(FOMA)」は、i アプリの実行環境を Windows 2000 もしくは、Windows XP 上でエミュレートすることによって、i アプリの開発を支援するソフトウェアです。また、Java 開発者向けの NetBeans や Eclipse といった統合開発環境（IDE）と連携が可能で、エミュレータの機能を駆使せずとも i アプリの作成を進めることができます。詳しくは、「iα ppli Development Kit ユーザーズガイド」を参照してください。

## 1.2 制限事項

1. 「iα ppli Development Kit for DoJa-5.0(FOMA)」の赤外線による OBEX 通信は、Windows98 では、irxfer.exe を、Windows2000/XP では、irmon.dll を利用しています。このため、「iα ppli Development Kit for DoJa-5.0(FOMA)」と移動機間での赤外線による OBEX 通信はできません。なお、「iα ppli Development Kit for DoJa-5.0(FOMA)」同士の赤外線による OBEX 通信は可能です。
2. TextBox および Canvas.imeOn( )に関する制限事項
  - processEvent( )の KEY\_RELEASED\_EVENT 処理内で Canvas.imeOn( )を呼び出して FEP を起動したとき、1 回目の Enter キー押下が無視されます。  
Enter キーによる確定動作のためには、Enter キーを 2 回押下してください。
  - DoJa-5.0 では、FEP における改行コードは CRLF("\r\n")に統一されていますが、LF("\n")も使用可能です。  
しかしエミュレータでは、改行コードに LF("\n")を使用した場合に正しく改行コードと認識されず、スペースに置き換わって表示されてしまう場合があります。  
改行コードには CRLF("\r\n")を使用するようにしてください。
3. Camera に関する制限事項  
エミュレータでは実際の画像撮影は行なわれず、takePicture( )メソッド呼び出しで Windows のファイル選択ダイアログが表示され、選択された画像ファイルが撮影画像としてアプリケーションに渡されます。  
この仕様により、以下の点で実機の動作と異なります。
  - 撮影画像サイズセットした Camera オブジェクトでの撮影においても、取得される画像サイズは選択画像ファイルに依存します。
4. トラステッド i アプリから HTTP 通信を行なう場合に、User-Agent ヘッダへのトラステッド ID 付与は自動的には行なわれません。  
User-Agent にトラステッド ID が付与された状態の試験を実施する必要がある場合は、アプリケーション動作環境設定ウィンドウネットワーク設定タブの User-Agent を変更して実施してください。

5. **AudioPresenter、Audio3Dに関する制限事項**  
本版では、通常再生モードでのサウンド再生に DirectX 8.1 以降が必要です。  
「通常再生モード」では、com.nttdocomo.opt.ui.AudioPresenter2 の鳴動は再生されません。
6. **ApplicationStoreに関する制限事項**  
selectEntry()メソッドは、本来ユーザ操作によって端末に保存されている i アプリのエントリが選択されるメソッドですが、エミュレータではアプリー一覧は表示されず、固定のエントリ ID が返却されます。
7. **CallRecordに関する制限事項**  
getLastRecord(int type)は、引数 type により着信履歴(CALL\_IN)/発信履歴(CALL\_OUT)を指定して取得できますが、エミュレータでは何れを指定しても着信履歴ファイル (lib/phonehistory/phonehistory.lst) の先頭の内容を返します。
8. **VisualPresenterに関する制限事項**  
i モーション再生では固定のダミー動画が再生されます。
9. **AudioTrackPresenterに関する制限事項**  
i モーション (サウンドトラック) 再生では固定のダミー動画が再生されます。
10. **MediaPlyerに関する制限事項**  
i モーション再生ではダミーのメディアプレイヤーが再生されますが、ダミー動画などは再生されません。
11. **仮想 FeliCa データファイルビューワに関する制限事項**  
フリー領域を使用するアプリケーションは A D F の FeliCaCPID と FeliCaPIN の値を仮想 FeliCa データファイルに適切に設定する必要があります。
12. **Graphics3Dに関する制限事項**  
プリミティブ描画の際、レンダリング時 (Graphics3D.renderPrimitive()メソッド呼び出し時) に指定するプリミティブ属性に Graphics3D.ATTR\_BLEND\_ADD または Graphics3D.ATTR\_BLEND\_HALF を指定すると正常な描画結果が得られないことがあります。これは、エミュレータがピクセルの色情報を RGB 各 8 ビットで保持しているのに対し、3D グラフィックスエンジンが行なう半透明描画演算ではピクセルの色情報を RGB 各色につき上位 5 ビットのみをその演算対象としていることに起因します (これは 3D グラフィックスエンジンの仕様となります)。実際の携帯電話上では、i アプリ実行環境で保持する色情報と 3D グラフィックスエンジンが行なう描画演算の精度は一致しているため、このような問題は発生しません。  
なお、エミュレータ上で本問題を回避するには、プリミティブが描画される背景の各ピクセルについて RGB 各色の下位 3 ビットをマスク (0xf8 との論理積をとる) します。ただしこの場合、描画データが本来持つ色情報が部分的に失われるので注意が必要です。
13. **i アプリオプション A P I PictureLightに関する制限事項**  
setColor()で、高輝度発光中に呼び出すとタイミングによりライトの色が変化する事があります。
14. **i アプリオプション A P I RadioTunerに関する制限事項**  
エミュレータでは実際にラジオ再生は行われないため、AudioPresenter 等 サウンド再生との競合時動作は発生しません。

15. OpenGL/ES に関する制限事項

GraphicsOGL クラスの `glEnableClientState()`、`glDisableClientState()` に `GL_NORMAL_ARRAY` を指定する／しないに関わらず、同クラスの `glNormalPointer()` に設定した値が有効になります。

16. FeliCa アドホック通信に関する制限事項

活性化状態から非活性化状態に遷移した後、`FelicaServerObexConnection#accept()` を呼び出した際に、`SecurityException` ではなく `IOException` が発生します。

## 2. 起動方法

「iα ppli Development Kit for DoJa-5.0(FOMA)」は、大きく分けて2通りの起動方法があります。一つはiα ppliToolを起動する方法で、もう一つは、iアプリを単体で起動する方法です。

### 2.1 iα ppliTool の起動

Windows の『スタート』⇒『プログラム』⇒『iα ppli Development Kit for DoJa-5.0(FOMA)』⇒『iα ppliTool for DoJa-5.0(FOMA)』を選択するか、コマンドラインから引数なしで `doja.exe` を実行すると、iα ppliTool が起動します。

また、`doja_g.exe` を実行すると、デバグが可能な iα ppliTool が起動します。

`doja.exe` および `doja_g.exe` は、

「iα ppli Development Kit for DoJa-5.0(FOMA)」を `c:\iDKDoJa5.0` にインストールした場合、  
**`c:\iDKDoJa5.0\bin`**  
の下にあります。

### 2.2 iアプリ単体の起動

コマンドラインから、

**`doja.exe -i ADFファイル`**

を実行すると、ADFファイルを読み込み、ADFファイルと同じディレクトリにJARファイルがダウンロードされたとして、iアプリが実行されます。

例：

`doja.exe -i ..\apps\CarRace\bin\CarRace.jam`

`doja.exe` では次のようなオプションを指定できます。

- ・ `-mx` ヒープサイズ[K|M] (Byte) 例： `-mx 8000K -mx 8M`  
(このパラメータは、他のパラメータより最初に指定してください。)
- ・ `-i` ADFファイル
- ・ `-s` スキン名
- ・ `-version`
- ・ `-help`
- ・ `-t` 起動タイプ番号  
(0: 通常起動 1:初回起動 2:タイマ起動 3:待受起動 4:外部機器起動 5:ブラウザ起動  
6:メーラ起動 9:即起動 10:受信フォルダ起動 11:送信フォルダ起動 12:未送信フォルダ起動  
13:位置情報起動 14:位置情報画像起動 15:位置情報電話帳起動 18:トルカ起動  
19:FeliCa アドホック起動 20:削除時起動 21:アプリ連携 (アプリ内から) )

※ 起動したアプリがアプリ連携をする場合は、`-t 21` を指定してください。

- -j JARファイルのパス
- -u ADFへのURL
- -w Windowsの親ウィンドウのハンドラ値
- -p 起動パラメータキー 1 起動パラメータ値 1 . . . -p 起動パラメータキー 16 起動パラメータ値 16

doja\_g.exe では次のようなオプションを指定できます。

- -debugger
- -suspend
- -nosuspend
- -jdkpath JDKのインストール先ディレクトリ
- -port デバッグエージェント間デバッグ用ポート番号
- -debugport IDE間デバッグ用ポート番号

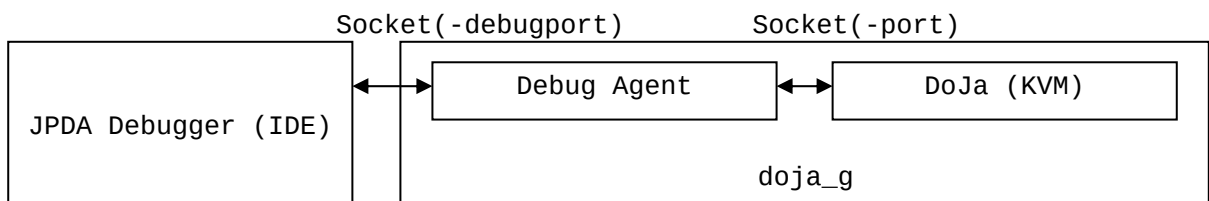


図 2-1 デバッグインターフェースアーキテクチャ

- -traceallocation
- -tracegc
- -tracegcverbose
- -traceclassloading
- -traceclassloadingverbose
- -traceverifier
- -tracestackmaps
- -tracebytecodes
- -tracemethods
- -tracemethodsverbose
- -tracestackchunks
- -traceframes
- -traceexceptions
- -traceevents
- -tracemonitors
- -tracethreading
- -tracenetworking
- -traceall